

地域の発展につくした人々を扱った単元の内容分析と授業構想

— 4年副読本『のびゆく足利』「足利学校を守る」について —

足利市立東小学校（上越教育大学大学院） 柏瀬 順 一

1 はじめに

「足利学校を守る」の内容は、平成元年版の現行学習指導要領に従って設定された「きょう土の発展につくした人々」の文化面を取り上げた単元である。内容的には明治以後における足利学校破壊の危機から守った相場朋厚と原田政七を取り上げ、さらに足利学校を後世に伝えようと努力している人々の現在の姿を扱っている。

しかし文化面を取り上げるに当たり、具体的な道具や資料が少なかったり、対象にかかわる足利学校へ見学に行っても、その2人については詳しく調べることができなかつたりして学習を深めることが難しい。そこで教科書等から同様の内容を扱うものを調べ、先行実践・研究より本単元についての授業構想を試みたい。なお本研究は、上越教育大学大学院の平成10年度前期実践場面分析演習「社会」でまとめたものである。

2 学習指導要領と単元目標

(1) 学習指導要領から

本単元は、現行（平成元年版）学習指導要領の社会編に記されていることから設定されている。（4学年1日目標(1)および2内容(2)）これは前（昭和53年版）学習指導要領⁽¹⁾の内容にはなかった文化的な先人の働きが現れていることが注目される。また現代においても地域の人々が改善に努めたり、努力している様子に気づかせることも含まれており、今もなお脈々としてその姿が見えるものを扱うことを示している。

同時に対象とする内容については、（3 内容の取り扱い (1)）にあるように取り上げる対象や事例を精選するように配慮する必要性があり、地域により開発面または文化面を取り上げることになっている。

これについて北俊夫、中野重人らが述べているように「開発でなければならないということではなく、また文化や教育の面につくした人を取り上げなければならない、ということでもない」⁽²⁾と述べ、地域の実態に沿った内容を扱うことができるようになっている。このようなことは既に教育課程審議会の答申及びその対応⁽³⁾に「地域社会の発展を願う態度を育成するという観点から」とあって、同時に「必要に応じ、我が国や外国の歴史とのかかわりにも気づかせるようにする」ことも明示されている。

また単に過去の内容だけではなく、「今日の地域を築いた人々を掘り起こし」⁽⁴⁾、「地域社会の発展を願う態度を育成するため」⁽⁵⁾という点から先人を取り上げ、さらに「児童がその工夫や努力に共感できる人物を、地域の実態を考慮して選択」⁽⁶⁾することも指摘されている。

加えて地域にかかわる学習は「地域を学習する」「地域で学習する」ことに加え「地域に根ざす学習」を進めること⁽⁷⁾をも踏まえているようである。

(2) 副読本『のびゆく足利』

さて足利市教育委員会では足利市立教育研究所で小学校社会科中学年用の副読本『のびゆく足利』の作成委員会⁽⁸⁾を組織し、平成元年版の学習指導要領に基づき、平成4年度から使用される副読本の作成を始めた。以前のものの関連単元は、用水事業による開発にかかわる「三栗谷用水」⁽⁹⁾と足尾鉞毒による土地改良につくした「岡本勇」⁽¹⁰⁾のものであった。

改訂にあたり作成委員会では

- ①学習指導要領に文化面が打ち出されたこと。
- ②足利市民憲章⁽¹¹⁾に足利学校が第1条に高らかに叫ばれるていること。

③平成2年度完成に向けて、足利学校が復元されていたこと。

④足利学校が廃校になっても、町の人たちが守ってきたこと。

等から足利学校を取り上げることになったという⁽⁶⁾。同時に先人として取り上げた相場朋厚と原田政七については、

①小3段階で約100年前までの学習が済んだでいるので、その範囲での人物であること。

②時代背景として、大政奉還と明治維新、太平洋戦争という大きな事件があったこと。

③資料は現段階で入手することができるが、将来それが困難になる恐れがあること。

④足利学校保存にとって大きな足跡を残していること。

等から、この2人を決定したという⁽⁶⁾。

3 教科書・副読本（4年）に見る内容

ここでは上越教育大で入手できた教科書と副読本について検討を行う。学習指導要領で新設された、文化の面における先人を取り上げているものだけを扱うものは、表1のようになる。

表1 文化面を扱った単元の掲載された小学4年社会科教科書

出版社	単元名（人物：地域名）	開発単元	時代
教育出版（4年下）	学校をひらく（小笠原東陽：神奈川県藤沢市）	有り	明治
大阪書籍（4年下）	地いきにつくした先人（南方熊楠：和歌山県田辺市）	有り	明治
学校図書（4年上）	教育・文化につくす（閑谷学校：岡山市）	有り	江戸
日本文教（4年上）	地いきの文化の発展につくした人（長沢理玄：山形市）	有り	江戸
光村図書（4年下）	スキーにたくしたねがい（市川達讓：長野県飯山市）	有り	大正
帝国書院（4年下）	教育や文化につくした人々（湯山文右衛門：静岡県小山町）	有り	江戸
東京書籍（4年上）	学校にかけたねがい（永山盛輝：長野県麻績村）	有り	明治

これらに共通することは開発単元が含まれている⁽¹⁴⁾ということである。つまり文化や教育の面だけが取り上げられているものは希であることが考えられる。これは、前述の要領の3内容の取り扱いを踏まえているためであろう。やや異色を感じるのは、市川達讓（光村図書「スキーにたくしたねがい」）で、本人の実績はスキーの普及活動だが、それに伴う野沢温泉村のスキー場開発と町の発展まで扱っており、文化の面から開発のそれまで含めた内容となっている。

また学習活動については、教材に応じた決まった方法が示されているわけではない。むしろ見学は教材の資料に規制されており、個人の記念館のようなものがあるもの⁽¹⁵⁾、展示の一部で教材の内容を扱っているもの⁽¹⁶⁾、野外の記念碑・お墓しかないもの⁽¹⁷⁾のように、地域、人物によって偏っていることが分かる。そのため人物を明らかにする資料にどんなものがあるかを把握しておかないと、その学習活動も限られてしまうことになる。

また、時数では3・4・6時間をとるものが多いが、もし文化の単元のみならば、やはり6時間以上は時数として必要であろう。さらに内容的には、「足利学校を守る」の保存という立場を考えると「南方熊楠」が天神崎の自然を守ったという点で注目したい。

4 先行実践・研究

本単元の内容が現行学習指導要領で取り上げられたためか、これについて単独で論じたものは、かなり限られていたがいくつか実践例があり、それを示す。さらにこの内容について論じた研究もあるので、文化面での先人を取り上げる上での考察も行いたい。

(1) 実践例

① 前田一彦「地域の自然を守る－天神崎」⁽¹⁸⁾（時数 8 時間）

この対象の地域は教科書では「南方熊楠」（大阪書籍）を取り上げているが、この実践は主に現代の「天神崎の自然を大切に作る会」（代表 外山八郎）の活動を取り上げている。そのため今までの先人のイメージとは異なるが、過去の南方熊楠からつながっている点やある程度実績が上がったという点で取り上げておく。

この単元の特徴の1つとして、「会」の活動過程が記録資料や記事などでしかたどることができず、具体的な物を子どもたちに見せることが難しいという内容を扱っていることである。開発単元は当時作業に使った道具が残り、体験などを通して苦勞などが実感できるが、文化面では具体物が少なく、追体験も非常に難しいことが多い。そのため、どうしても文字資料が中心になってしまう。この実践例でも見学は天神崎そのもので、「会」の見学は行われていない。このことは「足利学校を守る」でもいえることである。

② 福山義則「二宮金次郎」⁽¹⁹⁾（時数 6 時間）

二宮金次郎（尊徳）について、学校にある石像からの疑問をもとに学習を進め、記念館での写真⁽²⁰⁾を活用して苦心を分からせようとした実践例である。

③ 小林伸夫「西洋医学の発展につくした佐藤泰然」⁽²¹⁾（時数 9 時間）

この実践例も前述の②「二宮金次郎」同様、個人を顕彰する記念館があり、そこで情報が集められる人物を取り上げている。また問題を追究する場面を見学の時間としており、その発表会を学習のまとめとしている。

④ 木下正善の「野口雨情」⁽²²⁾と「白土松吉」⁽²³⁾

この2つの実践は、主に導入段階のアイデアが述べられており、単元全体については明らかにしていない。しかし人物を扱う上で特徴のある部分を活かした考えを示している。

「野口雨情」の例では、子供たちと人物の接点を大切にし、導入には本物のシャボン玉を作らせ、「しゃぼん玉」や「七つの子」等の音楽を聴かせる。さらに祖父母や両親という身近な人たちに雨情の作った歌の思い出を語らせることにより、雨情の残した心の財産を子供たちに感じさせている。また具体的な資料としては、雨情関係のレコード、絵本を聞いたり、見たりさせたりしている。

「白土松吉」の例では、年間指導計画にサツマイモ作りを位置づけておき、農家と自分たちが作ったサツマイモの育ちの違いについての問題意識をもたせたり作業上のいろいろな体験をさせたりしている。

⑤ 自己実践「足利学校を守る」（1994）

現行学習指導要領実施1年目であったので、専ら副読本指導書⁽²⁴⁾の展開に沿っている。また勤務校である足利市立東小学校が足利学校の敷地内にあったので、毎年1度清掃活動を行ったり、校歌⁽²⁵⁾にも出てくることから、足利学校はなじみのある場所である。しかし、2人の人物についてはなじみが薄く、足利学校を見学しても2人のことを知る部分はほとんどなかったことを覚えている。

⑥ 服部英樹「足利学校を守る」⁽²⁶⁾（時数 18 時間）

表現活動についての研究であったが、その際再び単元について教材研究する機会となった。足利学校に比較的近い学校であるが、授業者は見学をすることで子供たちが意欲的に活動できるようになってきたと、見学について話していたのが印象的であった。

(2) 人物を取り上げる上での留意点

ここでは人物を取り上げる上での留意点を取り上げる。このすべてを加味して教材化することが最良の方法だが、教材内容によりそれは多少になることを付け加えておく。

① 人物について

まず『指導書』⁽²⁷⁾には具体的な事例として、いくつかを示している。

地域によっては、地域の教育、文化のために私財を投げうち、あるいは、情熱を傾けて藩校や私塾などを開いた先人がいる。また、一人で黙々と強い信念をもって養殖技術や栽培技術の改良に取り組み、地域に一生をささげた先人もいる。過去においても、人々はよりよい生活を求めて努力し、地域社会の発展のために貢献してきた人々がいる。

また、伊東富士雄は平成4年度版の教科書を概観し、可能性のある人物を、教育者、医者、報道関係者、芸術家、学者（研究者）を上げている⁽²⁸⁾。ただ、場所によっては6年の歴史学習で出てくる人物の多い場合には、4年生の地域性や学習活動の点に考慮して選ぶことを麓純雄は述べている⁽²⁹⁾。このように文化の面で活躍した人物は、まだ教材化されたばかりで広範囲に及んでいることがわかる。同時にこれから教材化が期待される内容でもあると言える。

② 学習内容・活動について

学習内容の面では、地域との関連が強いことが大切である。地域学習である4年生の社会科⁽³⁰⁾では、具体的な人間と対峙し、共感し、人間に学ぶということがとりわけ大切であるという⁽³¹⁾。そして地域学習は単なる物知りではなく、自分の目で確かめ、調べ、地域の課題と発展について考えるものであるという⁽³²⁾。同様に木全清博は地域学習のまとめには、必ず子供に将来のこと、未来の展望を語らせることを述べている⁽³³⁾。

地域を扱うという点では、その学習内容は単に事実の羅列ではなく、そこに地域の将来や未来を子供たちに考えさせることが含まれていることが肝要である。具体的な行動までは無理であろうが、地域に住んでいるものの一員として人物を通じた学習から、自分でできること、やるべきことを考えさせるきっかけが学習内容にあることが必要であろう。

また学習活動の面では、子供が自分で資料を収集できるような体験活動をさせたり⁽³⁴⁾、教室の外に学習の場を設け、観察・調査をさせなければならない⁽³⁵⁾。もちろんその場合に、博物館や郷土資料館等の活用が図られることは言うまでもない⁽³⁶⁾。ただし、文化面では先人の実績を示す実物や展示施設が比較的少ない。そのため文字による資料の読解が活動の中心になりがちであることが多く、それが1つの課題ではないだろうか。

5 授業構想

以上の事柄を踏まえ、「足利学校を守る」についての授業構想を試みたい。

(1) 単元名 足利学校を守る (時数18時間)

(2) 目標

- 郷土に残る足利学校について関心をもち、進んで調べようとするとともに、文化財保護の大切さに関心をもち、自分たちにできる活動を考えることができる。(関心・意欲・態度)
- 相場朋厚、原田政七らの努力によって、足利学校や書籍が守られたことについて考えるとともに、これからも足利学校を保存することの大切さを考えることができる。(思考・判断)
- 相場朋厚、原田政七らの活動の様子を調べる方法を身につけたり、努力や思いを各自の方法で表現したりするとともに、文化財を大切にするという立場から、足利学校を見学することができる。(技能・表現)
- 相場朋厚、原田政七の努力により足利学校が保存されてきたことが分かるとともに、これからも保護・保存

しようとする考えが市民の間に広がってきたことが分かる。(知識・理解)

(3) 単元の展開構想

① 足利学校を知るために(見学)

足利学校に行ったことがあっても、普段は子供にとって分かりやすく説明されてはおらず、部分的な知識になっていることが多い。そこで足利学校のことについて認識させるために、単元の初めに見学の時間を設けたい。

本来ならまとめの場面や調べる学習の場面で見学を設けるが、現地では先人のことについては十分調べることは現状の展示では期待できない。そこで副読本には単元の最後にある見学を、足利学校そのものを知ることに目を向けることから、最初に行いたい。もちろん見学は、子供の意欲・関心を高める方法の一つでもあると考える。

また足利学校を管理している足利市でも公式ホームページを持ち、インターネット上に解説を載せており、建物などの説明を見ることができる⁽³⁷⁾。

② 先人の苦労を知るために(背景)

江戸～昭和における社会の状況に伴い、足利学校は破壊の危機にさらされてきた。このような状況にあって、残っている影には、保存に努力した人々がいたからである。

本単元では、幕末から明治期に活躍した相場朋厚と太平洋戦争前後に活躍した原田政七を取り上げ、保存存続の危機をもたらす社会状況の中で、どのような願いをもって行動してきたかを理解し、共感させていきたい。その際その人物の努力や苦労に気づかせるには、文化面を扱う内容では当時の道具を使った体験学習などが取り入れられず、実感することができない。そこで、ひとりの人間をこれだけ苦勞させた背景を考えさせたい⁽³⁸⁾。

そのため相場朋厚の場合、幕末から明治期の足利学校の変遷と朋厚との活動を並列した別の年表に書き表す。そうすることで彼の行動が関連づけられ、「実に40年もの長い間、足利学校のほご・ほぞんの仕事にいっしょうけんめい力を注いだ」⁽³⁹⁾ことに気づくことができるのではないだろうか。

また、原田政七の場合は太平洋戦争の状況と関連させるが、東京や足利周辺⁽⁴⁰⁾で空襲があったことを抑さえ、敗戦後は日本が負けたことと戦勝国にアメリカの他中国も含まれていることを知らせなければ、政七が心配する、中国へ本を返すということへ考えが及ばないのではないだろうか。

③ 考えをさらに深めるために(ポスターセッション)

この単元では単なる人物についての事柄を知るだけではなく、更に深く彼らの気持ちに踏み込むため、小グループによるポスターセッションのような形で自分たちがまとめたことを発表する。このことにより相手の意見を聞くとともに、自分の考えを発表することで自分の考えを深めることができる。さらに単なる発表会でなくポスターセッションでは、受け身から「自分から見に行く、聞きに行く」という態度が育成されるのではないかと考える⁽⁴¹⁾。

(4) 単元の指導計画(総時数18時間)

時間	ね ら い	主 な 学 習 活 動
1	・写真や資料から足利学校の関心をもつことができる。	・どんな点で足利学校が素晴らしいのかを考え、話し合う。
2	・足利学校を見学する計画を立てることができる。	・見学の計画を立て、その際の注意点について考える。
3	・足利学校を見学できる。	・足利学校を見学する。

4	・足利学校を守った先人の存在に気づき、学習計画を作ることができる。	・足利学校を守ることに努力した相場朋厚と原田政七について知り、問題を作る。
5 6	・活躍した時代背景と足利学校の状況に関連させて考えることができる。	・足利学校の状況について調べ、まとめる。 ・相場朋厚・原田政七の生い立ちを調べる。
7 8	・調べた内容を、分かりやすくまとめることができる。	・2人の足利学校を守るための行動・態度について調べ、まとめる。
9	・2人の人柄や生き方を理解することができる。	・先人たちの働きについての感想を話し合う。
10 ～12	・先人たちの活躍した事実だけでなく、自分の感じたことを表現できる。	・足利学校や2人の行動や気持ちについて様々な角度からまとめる。
13	・2人の思いや願いに対して自分の考えを持つことができる。	・まとめた作品の発表会を開き、保存活動に努力した先人の気持ちについて考える。
14	・足利市民の文化財保護活動に共感することができる。	・市民の文化財保護への関心・協力について知る。
15	・足利学校を保存することの大切さを考えることができる。	・足利学校を復原したわけについて考える。
16	・市民や足利市の文化財保護・保存活動を理解することができる。	・市民や足利市の文化財保護・保存について話し合う。
17	・自分たちにできることを考えることができる。	・自分たちにできる文化財を大切に活動について考える。
18	・足利学校を通して、郷土足利に関心をもつことができる。	・この学習を通して感じたことを話し合う。

註

(1) 昭和53年版の学習指導要領社会編第4学年には下記のごとくある。

目標(1) 地域社会では、人々の生活の安全や向上を図るための協力的活動や計画的活動が行われていること及び過去においても先人によるこのような働きが見られたことを理解させ、地域の発展を願う態度を育てる。

内容(2) 人々の生活の向上を図るため、市(町、村)や県(都、道、府)によって計画的な事業が行われていることや、地域の発展に果たした先人の働きについて理解させる。

(イ) 先人による地域の開発や保全の具体的事例を取り上げ、先人の働きを当時の人々の生活や用いた技術及び土地の条件の面から理解すること。

(2) 中野重人・北俊夫・向山行雄「座談会「改訂学習指導要領を授業にかける」ここが聞きたい」『社会科教育 No321』明治図書 1989

(3) 文部省「昭和63年小学校教育課程講習会資料 社会科」(中野重人「小学校学習指導要領・社会はどう変わるか⑧」『社会科教育 No316』明治図書 1989)

(4) 佐古寶松「地域社会についての学習の改善」『社会科教育 No321』明治図書 1989

(5) 田中常夫「地域教材を開発し体験的活動を」『社会科教育 No321』明治図書 1989

(6) 廣嶋憲一郎「教材研究のポイントを考える」『社会科教育 No321』明治図書 1989

(7) 日本社会科教育学会「社会科問題特別研究委員会報告」『社会科教育研究No59』 1988

またその解説として「地域に生活する人々の願いや地域の伝統・文化等に目を向けていくという地域に根ざす学習をいっそう強く進めていく必要があります。」とある。

(8) 作成委員には研究所職員3名(石井英行次長、浦野シツ・岩田昭所員)の他小学校社会科担当の教員として中山俊彦(西小)、福地百合子(相生小)、車塚巳喜雄(富田小)、篠宮璋(三和小)、多田一雄(松田小)、

白澤裕子（小俣小）（校名は作成委員当時の在籍校）らがあり、「足利学校を守る」を執筆したのは篠宮璋であった。

- (9) 創設は1570（元亀元）年と言われ、渡良瀬川を水源として足利市内の渡良瀬川以南の水田の水を供給する用水。最盛期は昭和30年で、水配面積は1429ヘクタールであった。
- (10) 昭和8年当時三栗谷用水組合長の岡本勇は、渡良瀬川の慢性的な水不足解消と足尾の古河工業からの鉍毒水の侵入を防止するため、三栗谷用水幹線改良事業を具体化させた。なおこの事業は、昭和9年より昭和42年の5次事業まで続いた。
- (11) 昭和45年5月5日に制定された足利市民憲章の最初の条に次のようにある。
 1. 足利市は日本最古の学校のある町です。

教養を深め、文化のかおり高いまちをつくり、すぐれた伝統をさらに発展させましょう。
- (12) 平成10年7月に中山、篠宮両氏から伺った。
- (13) 前述(12)その際篠宮の知人に相場朋厚の子孫がいたことも見逃せないであろう。
- (14) 開発に関する内容については次のように分かれるであろう。
 - ①単独の開発に関する単元が存在する。文化面との関連なし。

教育出版（袋井用水）・大阪出版（琵琶湖疎水）・日本文教（見沼代用水）・光村図書（拾ヶ堰用水）・帝国書院（牧ノ原台地）・「わたしたちの三和村」（上江用水）
 - ②単独の開発に関する単元が存在し、文化面も関連する。

学校図書（岡山藩主池田光政の命による津田永忠が行った児島湾干拓と閑谷学校の両事業）
- (15) 湯山文右衛門（資料館）・南方熊楠（記念館）
- (16) 津田永忠（閑谷学校）・市川達讓（スキー博物館）・相場朋厚、原田政七（足利学校）
- (17) 小笠原東陽（石碑・お墓）・長沢理玄（種痘碑）
- (18) 歴史教育者協議会『新たのしくわかる社会科4年の授業』あゆみ出版 1992
- (19) 北俊夫編『楽しい学習活動を取り入れた小学校社会教養方細案・第4巻』4年＊開発、国土の様子① 明治図書 1992
- (20) 小田原市尊徳記念館で、尊徳の活躍を人形を使って少年・青年・大人の各時期の様子を展示してあるものを撮影したものである。
- (21) 北・寺田・新見編『新しい学力観に立つ授業展開のポイント 社会科』東洋館 1994
- (22) 溝上・片上・北『社会授業をおもしろくするアイデア大百科2』地域学習の教材と指導のアイデア 明治図書 1995
- (23) 溝上・片上・北『社会授業をおもしろくするアイデア大百科2』地域学習の教材と指導のアイデア 明治図書 1995
- (24) 足利市立教育研究所 紀要319『のびゆく足利（小学校中学年社会科副読本指導書）』1992
- (25) 1番に「緑の木陰 うるわしき 孔子の廟のあるところ」とある。
- (26) 栃木県小学校教育研究会 足利支部社会科部会・足利市立相生小学校『平成9年度栃木県 指導案』1997
この研究会の研修部として、筆者は4年生部会の話し合いに参加していた。
- (27) 文部省『小学校指導書社会編』 学校図書 1989
- (28) 伊東富士雄「「地域の開発」先人の働き・最新ネタ情報」『社会科教育 No365』 明治図書 1992
- (29) 麓純雄「小学校4年 実践研究の焦点はどこか」『社会科教育 No360』 明治図書 1992
- (30) 岩田一彦「地域学習」（大森・佐島・次山・藤岡・谷川編『新訂社会科教育指導用語辞典』教育出版 1991）
- (31) 中野重人「中学年における地域学習の課題」『社会科教育 No275』 明治図書 1985

- (32) 中野重人「第4学年 社会科改定のポイント」『社会科教育 No326』明治図書 1989
- (33) 木全清博「地域素材の教材化」(朝倉編『現代社会科教育実践講座 第6巻 地域学習と産業学習』現代社会科教育実践講座刊行会 1991
- (34) 前掲書(29)
- (35) 小林祐玄「「地域の文化」の調査・最新ネタ情報」『社会科教育 No365』明治図書 1992
- (36) 学習指導要領の3内容の取り扱い1
- (37) <http://www.city.ashikaga.tochigi.jp/ashikaga/gakko/gakko.html>
- (38) 安部良治「「苦勞」-わからせるから背景を」『社会科教育 No318』明治図書 1989
- (39) 足利市立教育研究所『のびゆく足利』4年 1996
- (40) 宇都宮市や群馬県太田市周辺で空襲があった。足利市は市街地にはないが、数発が南部の田園地帯(足利市県町周辺)と北部山地に落とされている。
- (41) 前掲書(26)

実際の授業(平成9年11月6日 相生小4年生)では、ポスターセッションは原稿を読むだけの子もいたが、身近に聞く人がいることや慣れてきたことから、強弱をつけて発表するようになった子がいた。また紙芝居では、本人も調子が出てきて人物の感情がわかるように動きを入れて発表しており、発表者の変容を感じることができた。

謝 辞

この小稿をまとめるにあたり、ご指導・ご助言いただいた上越教育大二谷貞夫教授をはじめとする社会系の諸先生方、本単元の掲載した副読本の作成委員であった篠宮璋先生・中山俊彦先生、さらに資料調査で快く受け入れていただいた在籍校の植竹満前校長を初めとする、元足利市立東小学校職員のみなさまに感謝申し上げます。

評

「知識を覚える社会科から調べて考える力を育てる社会科へ」、これはこれからの社会科の学習を考えるキーワードといわれています。

そのためには、問題解決的な学習過程を工夫したり、作業的、体験的な学習活動を組み入れたりしていくこと。さらに、子供たちが社会的事象と進んでかかわりながら、社会的なものの見方や考え方を身に付けていくことができるような学習活動を工夫改善する必要があります。

本研究は、今回の学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、地域に根ざした社会科の学習指導の改善への新たな視点を示しています。

まず、地域の発展に尽くした人々の扱い方、特に文化面を取り上げた事例を、教科書や副読本、研究論文から洗い出し、そこから授業実践のための方法や指導の際の留意点についての考察がなされています。

次に、これまでの実践を踏まえた「足利学校を守る」についての授業構想が試みられています。ここでは、自ら学ぶ意欲を身につけるための具体的な展開が示されています。

足利学校見学という体験的な活動を通して、調べ方や学び方を身に付けさせることを重視した学習活動の展開。さらに、自分の考えをまとめたり、発表、報告したりする活動、話し合いや討論などの活動を学習過程に組み入れるとともに、足利市民としての自分が、今、文化財保護にどうかかわれるのかまでを見通した指導計画となっています。

この単元構想には、「地域社会の一員としての自覚をもつ」ことや「地域社会に対する誇りや愛情を育てる」という、地域に密着した社会科が目指されています。「調べ、考える」学習を重視した学習活動は、これから一層取り入れていく必要があります。その際、地域の教育的施設を積極的に活用していくことが、子供たちの学習意欲や学習効果を高めるうえで重要となってきます。

この研究は、副読本『のびゆく足利』「足利学校を守る」の単元で取り上げた、2人の人物への接近の仕方や教材研究のための一助になると考えます。また、これからの社会科の授業の展開を構想していく上で大いに参考になるものです。今後とも理論と実践を通して、更に研究が深められることを期待します。